

緊急消防援助隊の活動

大規模災害や特殊な災害が発生したとき、被災地の消防機関だけでは対処できないことも想定されます。このような場合には、被災地の要請を受け、緊急消防援助隊が地域を越えた消火・救助活動を実施します。緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設されました。

衣浦東部広域連合では平成17年に緊急消防援助隊に9隊を登録しました。その後隊数を徐々に増やし、令和4年に18隊とし、消火、救助、救急、特殊装備など、さまざまな面から地域を超えた活動ができる体制を作りました。令和6年2月までに計5回出動しました。

衣浦東部広域連合緊急消防援助隊の出動記録

平成23年(2011) 3月	東日本大震災 宮城県亶理町、山元町 4月24日まで延べ45日間、30隊136人派遣
平成26年(2014) 10月	御嶽山噴火災害 長野県木曾郡王滝村 10月22日まで延べ8日間、3隊15人派遣
平成30年(2018) 7月	平成30年7月豪雨 岡山県倉敷市 7月12日まで延べ7日間、3隊11人派遣
令和3年(2021) 7月	熱海市伊豆山土石流災害 静岡県熱海市 7月19日まで延べ10日間、4隊18人派遣
令和6年(2024) 1月	令和6年能登半島地震 石川県輪島市 1月31日まで延べ31日間、27隊110人派遣



東日本大震災における活動



御嶽山噴火災害における活動



平成30年7月豪雨災害における活動



熱海市伊豆山土石流災害における活動



令和6年能登半島地震における活動